

## 教室が寒い？ 昔はあったかかったような気が……………

※ 写真：Yahoo!JAPAN 画像より

年末からの寒波がいまだに続き、毎日寒くてまいってしまいます。学校は、コロナ対策のために換気していることも重なり、やっぱり教室はいつもの冬よりも寒いです。防寒着も状況にあわせて着用です。なんといっても暖房器具がエアコンになっていることが最大の理由かもしれません。

「エアコンじゃ、やっぱり暖まらないよね。」  
「子どもの頃は、石炭ストーブだったけど、  
今の子どもたちは想像できないだろうね。」

先日、出張先で集まった校長先生方と子どものころのストーブの話で盛り上がりました。

私が小学生の頃は、いわゆる「ダルマストーブ」で、燃料となる石炭を絶えず補給しながら教室を暖めていました。使用する石炭は毎日、石炭庫から日直が運ばなくてはなりません。石炭を十能（じゅうのう）を使ってバケツに入れ、教室まで運ぶのは結構大変だったのを覚えています。

着火作業は先生たちがやっていたと思うのですが、どうも記憶に残っていません。子どもたちが登校する前にストーブに火を入れてくれていたんでしょうね。「ダルマストーブ」には、ストーブの周りに弁当をおいて温めていたなんていう思い出もあります。

中学生になる頃には、「石油ストーブ」になっていました。石炭にかわり灯油をポリタンクで運ぶのが日直の仕事となっていたと思います。その後、灯油タンクのないタイプになりました。

このころの失敗談には、煙突にジャンパーが触れてしまいチリチリに穴が開いてしまったことや、ストーブの上のタライにビンの牛乳を入れて温めていたら、ビンの底が割れてタライの中が真っ白になったなんてことがありました。

モノの移り変わりも、当時の仲間との大切な思い出ですね。

ちなみに、実家はいまだに掘り炬燵です。やっぱり、暖かい炬燵に足を入れて、ミカンでも食べながら家族との会話を楽しんだり、テレビを見たりするのが最高だと思いませんか。

「子どもは風の子、大人は火の子」（TSUNAGU-繋ぐ- R2.12.18 掲載）とも言いますよね。



ダルマストーブ



石炭をバケツで教室へ



石油ストーブ、煙突注意

